

●7月16日(日)

- 11時15分 秋田空港集合／出発式
- 13時25分 羽田空港へ向け出発(予定より30分ほどの遅延)
- 14時30分 羽田空港着／専用バスにて成田へ向け出発
- 15時20分 成田空港着／チェックイン
- 18時40分 成田空港発(予定より15分ほどの遅延)

=== 同日 ===

●現地 7月16日(日)

- 18時30分 ポストン・ローガン空港着(機内にて30分ほど待機)～入国審査
- 20時40分 専用バスにて出発
- 21時10分 ホテル着／担当者からの挨拶およびオリエンテーション
- 21時45分 解散～就寝

秋田空港にて、多くの保護者様そして柘植校長先生、副校長先生はじめ秋田高等学校先生方のお見送りをいただくなか、26名の生徒たちは全9日間のアメリカ研修(「北雄の翼」)へ出発いたしました。

秋田県内ほぼ全域におよぶまさに未曾有の降雨災害の影響にて、複数のご家庭では深刻な被害(「被害」という点ではすべてのご家庭にて少なからず影響、懸念があったことと存じます)により集合できない可能性があること、学校様からの逐次のご連絡(深夜にいたるまで)により共有をさせていただき、一時是最悪のケース(参加不可生徒発生)を現実的に想定するところまで至りました。しかし早朝、角崎先生からの「全参加者が集合できそうです」のメッセージを見た時の安心、安堵感なことばになりませんでした。保護者さま、先生方、ご関係皆様のお気持ち、ご不安とご心配についてはどういふ我々が察することができないほど、そして半年以上前から研修への期待と思い、目的をともに高めてきた生徒さんたちの気持ちにいたっては、一人として欠けることなく出発を迎えることができたこと、喜びと嬉しさはまさに計り知れないものであったと思います。あらためまして、保護者の皆様、秋田高等学校先生方、同窓会はじめ関係皆様のご尽力に感謝申し上げます。

さて、秋田空港での出発遅延(羽田からの到着遅れ)があったものの、その後の国内移動、成田空港着後の搭乗および出国手続き等はスムーズに進み、時間とともに期待、そして研修への意識が高まる様子の生徒さんを乗せた日本航空機は、ほぼ定刻にてポストンへと出発いたしました。柘植校長先生からの生徒激励にございました「帰国した際(後)の生徒さんの様子・本日は大きく異なる(生き活きとした表情、今後=将来を見る眼差し)」であろうこと、それぞれに学びや気づきは様々と思いますが、間違いなくいずれも将来に大きな影響を与えるものになることでしょう。そして、感謝と研修への思いを伝えてくれた代表生徒さんのことばにありましたように、「それら(自分の変化をもたらしてくれる影響、糧)を掴みにいく、持ち帰るのは自分たち次第である」こと、過去の先輩方の研修も見せていただいております小職としても、彼のことばと思いは今回一層に強く響きました。

およそ13時間のフライトを経て、無事にポストン・ローガン空港に到着。こちらでも生憎の雨模様ではありましたが、もはやそんなことは気にならないくらい、機内窓から霧のかかったポストンの街並みを遠くに眺める生徒さんの表情は楽し

みとわくわくでいっぱいであるように感じました。国内線の主要ハブでもある同空港、混雑時間帯（数分間隔での発着）に重なったこともあり、予定駐機場が空くまで機内にて30分ほど待機後ようやく降機、その後入国審査場へと移動しました。上記どおり日本からの当便をはじめ世界各国からの到着&入国が重なり、入国審査場では長蛇の列、出口ロビーにて担当者出迎えを受ける頃は現地時間20時30分を過ぎ、一連の手続きに2時間ほどを要しました。さすがに疲労の様子は隠せませんが、我々からの逐次の連絡と指示、時間と荷物の管理、参加者同士の連携など、常に緊張感をもって対応してくれていたのは「さすがの秋高生！」。まずは、全員元気に、そしてよい表情で“研修の舞台（ある意味戦いの地）”ポストンに力強く降り立つことができたのは何よりでした。

ホテル到着後は、こちらでの研修全日程を担当するコーディネーター兼英語セッション・プログラム時のファシリテーターである「Seamusさん（ヘッドコーディネーター）」、「Christineさん（副ヘッドコーディネーター）」からの挨拶と簡単なオリエンテーション（※滞在時アドバイスと火曜日以降の詳細連絡は、あらためて明日の夕方に実施）、そしてアイエスエイ現地法人である GPI-US 代表「永松」からの激励、最後は村越先生から明日からの“スタートダッシュ”を期待、鼓舞する熱いメッセージをいただき、本日のプログラムは終了となりました。時計の針はすでに22時、各部屋移動後の連絡もなく、無事に就寝となったようです。

以上、初日の報告とさせていただきます。



